



学校だより

学校教育目標

郷土を誇りに思い、未来社会を生き抜く児童生徒の育成

唐津市立加唐小中学校

第6号

令和3年6月21日発行
文責 校長 宮地 浩幸

歯磨きしていますか？

6月2日（水）に歯科検診が行われました。食事は健やかな体作りには欠かせない要素ですが、歯の健康を害しては、十分な食事がとれないことは自明です。むし歯が発生する原因は、食べ物の残りカスを口内細菌が利用し、歯のエナメル質を溶かす物質が生成されるためにおこります。従って、むし歯を防ぐ方法は、一般的に食べ物の残りカスを歯磨きできれいに取ることが有効です。

今回は森先生が、模型を使って奥歯と前歯の具体的なブラッシングの方法を示してくれました。大切なことは、1つ1つの歯の特徴はそれぞれ異なるので、それらに合わせたブラッシングを行わなければならないということです。自分（校長）の反省も含めてなかなか上手な歯磨きができていません。歯医者さんから褒められる歯でいたいものです。少し蛇足になりますが、子ども達はフッ素洗口もしています。フッ素は歯のエナメル質を丈夫にします。



部活動

現在、本校の部活動はテニス部だけが活動しています（バドミントン部は現在休部中）。部員は中学生1名、小学5年生1名です。昨年度簡易で作ったテニスコートもかなり見慣れてきました。毎日、部活動を行っていますので、コートもかなり良くなってきました（作りたての頃は、少し面が荒れていて、イレギュラーなバウンドが多かった）。また、雨の日や風が強い日は体育館で練習します。規則正しい練習は子ども達のスキルアップにかなり効果があるようです。そんな中で、今年は、県の中体連が実施されます（昨年度は県大会が中止、地区大会のみが行われました）。テニスの大会は、地区の予選会も県大会も6月に実施されますので、今は練習に拍車がかかっています。文武両道を目指す本校では、授業も部活動も是非結果を残したいと児童生徒も職員も頑張っています。保護者や地域の皆様のご声援をお願いします。



そのような状況で、6月11日（金）に中体連選手推戴式を行いました。昨年度はコロナ禍において全国中体連、九州中体連、県中体連大会がすべて中止になりました。昨年の中学3年生（現高校1年生）は大変悔しい思いをしたことだと思います。今年は、今のところ全て実施予定です。子ども達は部活動の練習規定にのっとり、きちんと毎日練習しています。校長もテニス部の活動にできるだけ参加させてもらっています。選手の技術が向上しているのはとても実感できることです。だから、大会では日頃の練習の成果を十分に発揮できることを期待します。そして選手には次のことを意識して欲しいと思いまし

た。「大会に参加するからには、自分で納得のいく結果が得られるように最善の努力をすべき。スポーツにおいては心技体全ての要素が大切だと言われる。技は日頃の練習で十分培われているので、試合当日は気持ちと体をしっかり整えて望んでもらいたい。」

式の最後に小学生から激励の言葉と品物が送られました。選手には加唐中学校の生徒として自信を持って競技してきて欲しいと思います。



合同スピーチ

6月9日(水)高島小学校と合同スピーチを行いました。今回のテーマは「兄弟姉妹は多い方がいいか、少ない方がいいか」です。代表でスピーチを行ってくれた高島小学校の児童は、「少ない方がいい、理由としてゲームの取り合いが起こる」でした。これを機に、いろいろな理由付けで「多い方がいい、少ない方がいい」を主張する意見が活発に発せられました。少ない方がいいと答える児童は具体的な物の所有に関する意見が多いようで、子ども達の日頃の生活で抱えている悩みなのかもしれないと考えられます。ところで、本校の児童生徒に一人っ子は存在せず、2人もしくは3人の兄弟姉妹がいます。

個人的な意見としては、兄弟姉妹はいた方がいいと思いますし、子供たちが成長すれば、人としての関わり合いとして兄弟姉妹の大切さはわかるものだと感じます。もちろん今回、兄弟姉妹の数が何人以上を多いとするというようにはっきりした境は決めていないので、兄弟が多い少ないというのはどの程度のことを言っているのか子ども達によっても違うものだと感じます。兄弟姉妹が多くなれば物を共有する可能性が大きくなるために独占したいという欲望は、精神的な発達が未熟なときには起こりがちです。これから本校の兄弟姉妹が支え合い、互いの存在意義が大きくなっていくことで精神的な成長の跡が見えてきます。子ども達の変化を楽しみにしたいと思います。

加えて、最後の振り返りを終えたところで、高島小学校の先生から、「今回、機器の調子が悪く、聞き取りづらかったが、他人に何か伝えたい時に、聞いている人の表情が大切で、もし分かりづらそうな表情をすれば、その反応を見て話している側が分かりやすく説明しようとする。そのようなことで、コミュニケーション能力が上がる。」という話をされました。この話で分かるように聞き手のリアクションはとても大切です。

島内清掃

6月8日(火)にゆうき会(児童生徒会)で、島内の清掃活動を行いました。例年のボランティア行事ですが、今年は小学校低学年が多いので、子ども達も大変だったと思います。自分たちでできる地域への恩返しの一つです。教育目標に「郷土を誇りに」という言葉を入れていますが、「子ども達は地域に守られ、地域へ奉仕する。」その繰り返しにおいて、将来、ふるさととの絆は一層強くなるものだと感じます。ところでもともとボランティア活動の教育的な意義は何でしょうか？

学校教育では、学習指導要領に基づく教育課程の下、意図的・制度的に教育活動が行われています。そのため、子ども達は興味・関心の有無に関わらず、決められた教育活動に無機質に取り組むことも多いのですが、他方、ボランティア活動は、自発性・主体性、無償性・公共性・社会性等の理念を有するものであると考えられています。そのことにより、子どもの自分自身に対する理解、活動を通して関わる他者に対する理解、自らが生きる社会に対する理解と共に自分自身を尊重できる自己肯定感、社会の中で役に立つことが出来るという実感である社会的有用感の育成に有意義に働くと期待されています。

